

平成22年度 地域包括支援センター専門委員会 開催報告

1 開催状況

	開催日	主な内容
第1回	7 / 21 (水)	・平成21年度地域包括支援センターの運営状況 ・地域包括支援センターの成果と課題 ・地域包括支援センター専門委員会年間計画
第2回	10 / 13 (水)	・地域包括支援センターの評価指標の設定 ・地域包括支援センターの成果・課題の要因 ・(情報提供) 介護予防ケアプランとホームヘルプサービスの生活機能向上促進モデル事業

2 主な協議内容

< 第1回会議内容 >

(1) 平成21年度地域包括支援センターの運営状況

- ・相談件数は平成20年度以降20万件を超えている。
- ・平成21年度は相談件数が前年に比べ減少しているが、複数の相談者からの相談を重複計上しないなど、計上基準を是正したことや、支援ネットワークの推進により地域包括支援センターを経由しない互いの情報交換が行われているためと判断している。

【委員の意見(主なもの)】

- ・市民のニーズに十分に対応できているのかも含め、地域の課題などを明らかにするためには、地域包括支援センターごとの評価が重要ではないか。

(2) 地域包括支援センターの成果と課題

- ・成果：支援ネットワークの構築が進み総合相談窓口としての役割が周知され、相談件数の増加につながった。また、相談のたらい回しがなく、出前主義で対応することに市民から高い評価があり、高齢者虐待・権利擁護などの問題への早期対応が可能となった。
- ・課題：市民が安心して相談を受ける環境が十分ではない。業務量の増加により、三職種のチームアプローチが困難。統括支援センターの業務が増加し、地域包括支援センターの業務管理や調整機能が十分ではない。

成果については継続して取り組み、課題については今後改善を検討する。

【委員の意見(主なもの)】

地域包括支援センターの意義は三職種がチームで市民のニーズに対応することであるため、センターを集めることを考えていくべきではないか。

(3) 地域包括支援センター専門委員会年間計画

平成21年度からの検討課題である評価指標、および地域包括支援センターの課題について検討していくこととする。

< 第2回会議内容 >

(4) 地域包括支援センターの評価指標の設定

- ・地域包括支援センターが果たすべき役割を遂行できているかを評価するために、現在活用している「自己点検」などを含め、プロセス（実施過程）、アウトプット（実施量）、アウトカム（成果）の指標を設定する。
- ・新たな評価として、センターごとの相談実績とケアプランチェックを加え、今年度は福岡県が実施するケアプランチェックアドバイザー派遣事業に取り組む。

【委員の意見（主なもの）】

ケアプランチェックをモデル的に行うなど、指標の設定に向けた取り組みは、前進している。様々なデータを分析し、センターの課題改善に活用していくことが必要。

(5) 地域包括支援センターの成果・課題の要因

地域包括支援センターの成果・課題の要因と、継続したい方向性、課題解決に向けて取り組みたい方向性について、事務局より報告を受けた。

【委員の意見（主なもの）】

本市の地域包括支援センターが直営であることで、公平・中立性が確保されている。また権利擁護業務への早期対応が可能になっている点など、直営で運営することは評価できる。直営であることの長所を今後も継続していくためにも、センターの業務内容を整理することで、重点化すべき役割を明確にできるのではないかと。

3 今後の進め方

第3回専門委員会の開催は11月下旬～12月上旬を予定。